

# **院内中期計画**

**(平成30年度～平成35年度)**

**【 各専門センター・部門 】**

**茨城県立中央病院**

**平成29年10月**

**平成30年8月改訂**

## はじめに

茨城県立中央病院は、茨城県立こころの医療センター、茨城県立こども病院とともに平成30-35年度の中期計画を作成中です。茨城県立中央病院としては、病院内の各部署(診療科, センター, 委員会, 局など)ごとに中期計画を立て、ボトムアップに本院の中期計画を立てることを試みています。

今回が初めての試みであることから、各部署の中期計画は必ずしも病院が公認する(実現を保証する)ものでは有りませんが、各部署の中期計画を病院として応援してゆく所存です。各部署の中期計画は、副院長が指名した担当者、副院長、病院長が順にチェックしていますが、各部署の意向はできるだけ尊重しています。すでに、本病院の中期計画に採用させていただいているものも少なくありません。

本病院の中期計画は3年後にしか見直す機会が与えられませんが、病院内の各部署の中期計画は毎年変更することを許容する方針です。このような試みを継続することで、各部署の中期計画の集大成として病院の中期計画を作成することを実現できるようになるでしょう。病院運営を目標達成型運営, ビジョン追求型運営とし、トップダウン型運営からボトムアップ型運営へ変換してゆくきっかけになることを期待しています。

今回、各部署の中期計画を診療科, センターなどに分けてまとめさせていただきました。ホームページにも発表することで、院外からご意見をいただくとともに、院内においては他の部署の中期計画を理解し、今後の改訂の参考にしてもらいたいと考えています。

平成29年10月1日

病院長 吉川 裕之

## 目 次

がんセンター	4
救急センター	5
予防医学センター	6
透析センター	7
化学療法センター	8
循環器センター	9
臨床検査センター	10
放射線治療センター	11
遺伝診療部	13
呼吸器センター	14
栄養サポート室	15
地域臨床教育センター	16
医療スキルトレーニング室	17

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	がんセンター				
ミッション等	ミッション:安全で有効ながんの標準的診療を行うこと。 ビジョン:低侵襲で先進的な診断・治療を取り入れ、茨城県の中核的がんセンターとなること。				
中期計画の項目	a:年度別がん登録数の増加、b:年度別がん5年相対生存率の延長、c:鏡視下手術専用室の整備と適応疾患の拡大				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度	
	a	平成29年分 2283(前年比5%増)	平成30年分 2397(前年比5%増)	平成31年分 2517(前年比5%増)	
	b	平成25年治療症例 胃 :58.8%(前年比 2%増) 大腸:66.0%( " ) 肝 :33.7%( " ) 肺 :36.1%( " ) 乳房:97.5%(前年比 0.5%増)	平成26年治療症例 胃 :59.9%(前年比 2%増) 大腸:67.3%( " ) 肝 :34.3%( " ) 肺 :36.8%( " ) 乳房:98.0%(前年比 0.5%増)	平成27年治療症例 胃 :61.1%(前年比 2%増) 大腸:68.7%( " ) 肝 :35.0%( " ) 肺 :37.6%( " ) 乳房:98.5%(前年比 0.5%増)	
	c	適応症例の 手術施行	前立腺・腎・膀胱・ 胸部疾患	(前年と同じ)	(前年に加え) 肺・子宮
		専用手術室	計画と設計	前年と同じ	前年と同じ
		H33年度	H34年度	H35年度	
	a	平成32年分 2593(前年比3%増)	平成33年分 2671(前年比3%増)	平成34年分 2751(前年比3%増)	
	b	平成28年治療症例 胃 :62.3%(前年比 2%増) 大腸:70.0%( " ) 肝 :35.7%( " ) 肺 :38.3%( " ) 乳房:99.0%(前年比 0.5%増)	平成29年治療症例 胃 :63.6%(前年比 2%増) 大腸:71.4%( " ) 肝 :36.4%( " ) 肺 :39.1%( " ) 乳房:99.5%(前年比 0.5%増)	平成30年治療症例 胃 :64.8%(前年比 2%増) 大腸:72.8%( " ) 肝 :37.2%( " ) 肺 :40.0%( " ) 乳房:100%(前年比 0.5%増)	
	c	適応症例の 手術施行	(前年に加え) 大腸・頭頸部	(前年に加え) 胃	(前年に加え) 肝・胆・膵
		専用手術室	備品整備	完成	前年と同じ

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	救急センター・救急科			
ミッション等	ミッション(存在意義):茨城県における救急医療の構築・維持・発展 ビジョン(目指すゴール):茨城県において軌範となりうる中核的救急医療体制の確立			
中期計画の項目	a) 救命救急センター相当の機能の維持・発展 b) ドクターカー事業の地域的、時間的な拡大 c) 近隣施設、要員を包含した1次医療体制の確立			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a)	救急専任医師を増員し、救急専門医の増加を図るとともに、救急専門医の育成を行う救急応需率95.4%を維持する	→	救急専任医師をさらに増員し、休日においても救急専任医師が勤務する体制を構築する。
	b)	ドクターカーの活動ができる医師、看護師、救急救命士の養成を行い、活動できる要員を増やす  笠間、石岡、小美玉管内に加え、筑西広域消防本部管内に活動範囲を拡大する	ドクターカーチームが複数組める体制を構築し、活動時間の拡大を図る  他施設のドクターカー業務とも提携し、地域的、時間的により効率的な運用を図る。	→
	c)	笠間市立病院の移転新築、地域医療センターかさまの開設に伴って、周辺の1次救急医療体制を再構築する。  小児科・産科救急の拡大する	診療各科、各日当直医および救急科医師による、さらに効率的な1次診療体制の整備を図る。	→
		H33年度	H34年度	H35年度
	a)	→	新棟において、緊急手術、緊急IVR、緊急CAG、緊急内視鏡等が同一部署でできる体制を構築する。	当院が中心となって育成した救急専門医を加えて、常時、救急科医師が勤務する体制の構築を図る。
	b)	→	→	ドクターカー業務が、休日・夜間を含め、全ての時間帯をカバーする体制の構築を図る。
	c)	→	→	→
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a) 救急搬送4,756、救急応需率95.1%、3次救急患者数 400(平成28年度) b) ドクターカー出動件数 277 (平成28年度)。笠間・石岡・小美玉市との協定。平日日勤帯の体制の確立。 c) 産科、小児科、精神科、歯科口腔外科および土日休日の眼科を除く1次・2次医療体制(29年7月現在)		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	予防医療センター			
ミッション等	ミッション: 疾患の2次予防及び1次予防を推進する。 ビジョン: 年間3000人の人間ドック。生活習慣病1次予防が推進できるセンターとなる。			
中期計画の項目	a) 計画の早い段階で医師を増員し、年間3000人のドックを目指す。 b) ドック専従医だけでなく、応援医師、保健師、看護師、事務員、関連検査技師等の増員。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック受け入れ人数(年間約1400人)。</li> <li>・脳ドック週3人(年間150人)</li> <li>・受け入れ窓口(ドック予約窓口)の1つ増設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック →1600人/年</li> <li>・待合室の増設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック →1800人/年</li> </ul>
	b	(栄養指導室がドックで使えるようになるため) <ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓ドックの開設</li> <li>・特定保健指導の2ブースが確保できる。(保健師が必要となる。)</li> <li>・CPAP350人の維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨粗鬆症(1次予防)ネットワークの構築</li> </ul>	
		H33年度	H34年度	H35年度
	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック →2000人/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック →2500人/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック →3000人/年</li> </ul>
	b			
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	人間ドック 1200人/年達成に向けて進行中。			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	腎臓内科・透析センター・シャントPTAセンター			
ミッション等	ミッション: 腎疾患の病診連携と県内透析者の合併症入院中の維持透析・PTA ビジョン: 県内に少なくとも3箇所の在宅血液透析指導施設の設置し、普及に努める			
中期計画の項目				
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
		①腎疾患の受け入れと長期にわたる外来加療をできるだけ病診連携へ移行したい→管理できるクリニックの確保と連携 ②透析認定看護師を介した慢性腎不全保存期から透析導入期までの連携と強化(透析認定看護師の介入) ③腎疾患の教育入院をもう少し増やしたい	①→→→→→→→→→→→→→→→ ②→→→→→→→→→→→→→→→ ③→→→→→→→→→→→→→→→ ④県に働きかけて、県北・県南～県西に在宅血液透析の指導をできる透析施設の提案	①→→→→→→→→→→→→→→→ ②→→→→→→→→→→→→→→→ ③→→→→→→→→→→→→→→→ ④県に働きかけて、県北・県南～県西に在宅血液透析の指導をできる透析施設の確保と指導
		H33年度	H34年度	H35年度
		①→→→→→→→→→→→→→→→ ②→→→→→→→→→→→→→→→ ③→→→→→→→→→→→→→→→ ④県に働きかけて、県北・県南～県西に在宅血液透析の指導をできる透析施設の患者排出開始 ⑤新病院への透析センターの提言:ICU横に入院用の透析4～10床を確保、月・水・金、火・木・土曜で透析を行う	①→→→→→→→→→→→→→→→ ②→→→→→→→→→→→→→→→ ③→→→→→→→→→→→→→→→ ④→→→→→→→→→→→→→→→ ⑤→→→→→→→→→→→→→→→ ⑥現在の透析センターはクリニック化して、入院の際は病診連携を図る	①→→→→→→→→→→→→→→→ ②→→→→→→→→→→→→→→→ ③→→→→→→→→→→→→→→→ ④→→→→→→→→→→→→→→→ ⑤→→→→→→→→→→→→→→→ ⑥クリニック化した透析センターを増床し安定経営の道を模索する(県立長時間透析研究所またはクリニック)。
計画期間前(平成29年度まで)の実績				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	化学療法センター			
ミッション等	ミッション:安全・安心なエビデンスに基づいたがん化学療法の実践 ビジョン:チーム医療による化学療法のシステム化			
中期計画の項目	a)人材育成 b)外来で実施可能な化学療法を外来へ移行			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	・人材育成 腫瘍内科医4名 (がん薬物療法専門医2名) がん専門薬剤師1名 がん化学療法認定薬剤師1名 がん化学療法認定看護師2名 の診療体制を確立する。	(継続的に人材育成・リクルートを行い 平成32年度内には達成することを目標とする)	
	b		・外来で可能な化学療法は原則として全て外来へ移行し、可能なものについては腫瘍内科医が担当	
			H28年度の外来化学療法実施率:71% 中期計画期間内に80%まで上昇させることを目標とする	
		H33年度	H34年度	H35年度
	a			
b				
計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a)現在、化学療法センターに勤務する専門スタッフの人数は以下のとおり。がん薬物療法専門医:0、がん専門薬剤師:1、がん化学療法認定看護師:1。 b)平成28年度、化学療法外来移行率は71%。			



茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	循環器センター			
ミッション等	ミッション: 心大血管系が健康に機能するように尽力する。 ビジョン: 心大血管疾患の障害を克服することで県民の誰もが健康に長生きできる社会を創る。			
中期計画の項目	ア. 開胸手術数年間100例以上を達成し、維持する。 イ. 心筋再生医療の実施を目指す。			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	ア	開胸手術数年間100例以上を目標にする。	開胸手術数年間100例以上を達成する。	→
	イ	心筋再生医療の実施を目指して、企画とともに必要な研修を重ねる。 ハイブリッド手術室を要望する。		→
		H33年度	H34年度	H35年度
	ア	開胸手術数年間100例以上を維持する。		→
	イ	ハイブリッド手術室を実現する	専門施設で研修・研鑽する。	心筋再生医療の実施する。
計画期間前 (平成29年度まで) の実績				

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	臨床検査センター			
ミッション等	ミッション: 県立唯一の総合病院内臨床検査センターとして高い精度の検査を行う。 ビジョン: 臨床検査技術科を中心とする多職種の協同作業による質の高い臨床検査センターとなる			
中期計画の項目	①臨床検査技術の向上 ②人数および配置の適正化 ③運営収支の包括的検討 ※詳細については、臨床検査技術科、臨床検査委員会も参照ください			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常臨床検査技術の向上</li> <li>・遺伝子診療に関わる臨床検査技術の取得</li> <li>・生理機能検査(特に超音波検査)の対応力向上</li> <li>・臨床検査に関する教育、研修</li> <li>・臨床検査に関する資格の取得</li> </ul>	⇒	⇒
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師の定数検討</li> <li>・業務に対する人員配置の検討</li> <li>・予防医療業務(健診センター)への対応</li> </ul>	⇒	⇒
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査業務の収支の把握</li> <li>・高額機器の計画的購入および更新</li> <li>・院内、院外検査の採算性の検討</li> <li>・臨床検査技師教育、研修、資格取得などに伴う経費的援助</li> </ul>	⇒	⇒
		H33年度	H34年度	H35年度
	①	⇒	⇒	⇒
	②	⇒	⇒	・新棟建設に伴う臨床検査センターの移動・再配置
	③	⇒	⇒	⇒
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	放射線治療センター, 放射線治療科			
ミッション等	<p>ミッション: すべての患者に安全・安心な高精度放射線治療を提供する。</p> <p>ビジョン: 患者中心の放射線治療を提供し、がんと共存できる社会をつくる</p>			
中期計画の項目	<p>1. 最新の放射線治療機器を有効かつ効率的に運用する</p> <p>2. 放射線治療に関わる人材の育成と、活力のある組織体制を構築する</p> <p>3. 小線源治療システムの更新を達成し、統合的放射線治療センターを構築する。</p>			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	1	<p>1) IMRTの適応拡大(1年間に肺がん20例、食道がん10例にIMRTを実施する)</p> <p>2) 前立腺がんに対する短期照射および定位体幹部放射線治療に関する臨床試験を開始する</p> <p>3) 県央、県北地区における放射線治療に関する地域連携を強化する</p>	<p>1) IMRTの適応拡大(治療計画から開始までの期間を1週以内に短縮する)</p> <p>2) 前立腺がんに対する短期照射および定位体幹部放射線治療に関する臨床試験を行う</p> <p>3) 県央、県北地区における放射線治療に関する地域連携を強化する</p>	<p>1) IMRTの適応拡大(IMRTの件数を年間200例とする)</p> <p>2) 前立腺がんに対する短期照射および定位体幹部放射線治療に関する臨床試験を行う</p> <p>3) 県央、県北地区における放射線治療に関する地域連携を強化する</p>
	2	<p>1) 放射線治療品質管理部門の役割に関する検討</p> <p>2) 筑波大学と連携し放射線治療専門医を育成する。</p> <p>3) 看護局と連携をしがん放射線療法看護認定過程の受講を促す。</p> <p>4) 医学物理士, 放射線治療専門放射線技師の取得のため治療関連セミナーに参加する。</p> <p>5) 茨城県立医療大学と連携し、医学物理士の育成にあたる</p>	<p>1) 放射線治療品質管理部門の独立を実現する</p> <p>2) 筑波大学と連携し放射線治療専門医を育成する。</p> <p>3) 看護局と連携をしがん放射線療法看護認定過程の受講を促す。</p> <p>4) 医学物理士, 放射線治療専門放射線技師の取得のため治療関連セミナーに参加する。</p> <p>5) 茨城県立医療大学と連携し、医学物理士の育成にあたる</p>	<p>1) 放射線治療品質管理部門の機能強化</p> <p>2) 筑波大学と連携し放射線治療専門医を育成する。</p> <p>3) 看護局と連携をしがん放射線療法看護認定過程の受講を促す。</p> <p>4) 医学物理士, 放射線治療専門放射線技師の取得のため治療関連セミナーに参加する。</p> <p>5) 茨城県立医療大学と連携し、医学物理士の育成にあたる</p>
	3	<p>1) 小線源治療システムの更新機種選定と予算要求</p> <p>2) ハイパーサーミア装置導入に向けた検討と予算要求</p>	<p>1) 小線源治療システムの更新を実現する。</p> <p>2) ハイパーサーミア装置導入に向けた検討と予算要求</p>	<p>2) ハイパーサーミア装置導入</p>
		H33年度	H34年度	H35年度
	1	<p>1) IMRTの適応拡大(全症例の45%にIMRTを実施する。件数は250名以上)</p> <p>2) 前立腺がんに対する短期照射および定位体幹部放射線治療を実施する</p> <p>3) 県央、県北地区における放射線治療の適応率を全国平均(年間の新規放射線治療患者数が1000人あたり1.5人)とする</p>	<p>1) IMRTの適応拡大(全症例の45%にIMRTを実施する。件数は250名以上)</p> <p>2) 前立腺がんに対する短期照射および定位体幹部放射線治療を実施する</p> <p>3) 県央、県北地区における放射線治療の適応率を全国平均(年間の新規放射線治療患者数が1000人あたり1.5人)とする</p>	<p>1) IMRTの適応拡大(全症例の45%にIMRTを実施する。件数は250名以上)</p> <p>2) 前立腺がんに対する短期照射および定位体幹部放射線治療を実施する</p> <p>3) 県央、県北地区における放射線治療の適応率を全国平均(年間の新規放射線治療患者数が1000人あたり1.5人)とする</p>

	2	<p>1)放射線治療品質管理部門の機能強化</p> <p>2)筑波大学と連携し放射線専門医、放射線治療専門医を育成する。(放射線専門医試験合格2名)</p> <p>3)看護局と連携をしがん放射線療法看護認定過程の受講を促す。</p> <p>4)医学物理士、放射線治療専門放射線技師の取得のため治療関連セミナーに参加する。</p> <p>5)茨城県立医療大学と連携し、医学物理士の育成にあたる</p>	<p>1)放射線治療品質管理部門の機能強化</p> <p>2)筑波大学と連携し放射線専門医、治療専門医を育成する。(放射線専門医試験合格2名)</p> <p>3)看護局と連携をしがん放射線療法看護認定過程の受講を促す(2名が資格を取得する)。</p> <p>4)医学物理士、放射線治療専門放射線技師の取得のため治療関連セミナーに参加する。(2名が資格を取得する)</p> <p>5)茨城県立医療大学と連携し、医学物理士の育成にあたる</p>	<p>1)放射線治療品質管理部門の機能強化</p> <p>2)筑波大学と連携し放射線専門医、治療専門医を育成する。(放射線専門医試験合格2名)</p> <p>3)看護局と連携をしがん放射線療法看護認定過程の受講を促す(2名が資格を取得する)。</p> <p>4)医学物理士、放射線治療専門放射線技師の取得のため治療関連セミナーに参加する。(2名が資格を取得する)</p> <p>5)茨城県立医療大学と連携し、医学物理士の育成にあたる</p>
	3	<p>1)小線源治療の適応拡大(婦人科、乳がん、他)</p> <p>2)ハイパーサーミアの臨床導入</p>	<p>1)小線源治療の適応拡大(婦人科、乳がん、他)</p> <p>2)ハイパーサーミアの臨床導入</p>	<p>1)小線源治療の適応拡大(婦人科、乳がん、他)</p> <p>2)ハイパーサーミアの臨床導入</p>
計画期間前 (平成29年度まで) の実績		<p>1)平成28年 医学物理士教育に関する茨城県立医療大学との協定締結</p> <p>2)平成29年2月 高精度放射線治療システム(TrueBeam ST-x)の更新</p> <p>3)平成29年2月 高精度患者位置決めシステム(ExacTrac_Tliogy)を新規導入</p> <p>4)平成28年12月増築放射線治療センター運用開始</p> <p>5)茨城県がん診療連携協議会、放射線部会の活動</p>		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	遺伝診療部			
ミッション等	ミッション: 茨城県内における遺伝診療に対応する ビジョン: 国内で最先端の遺伝診療とそのための人材育成を行う。			
中期計画の項目	ミッション・ビジョンを達成するために下記に取り組む。 a) 遺伝診療に伴う遺伝カウンセリングと遺伝学的検査の実施(外注を中心として、院内でできる遺伝学検査も検討) b) 遺伝診療に関わる医療者の教育、研究支援、人材確保			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a	各診療科の遺伝診療への協力及び指導		▶
		コンパニオン診断薬導入に伴う遺伝カウンセリングの実施		▶
		遺伝性腫瘍に対する予防切除の導入	多診療科でのがんを中心とした家族歴問診票導入による遺伝性腫瘍スクリーニングの開始	看護師による問診票を元にした遺伝性腫瘍スクリーニングのための家族歴聴取開始
	b		臨床遺伝専門医及び認定遺伝カウンセラー(学生含む)研修(各年度1名程度)	▶
		定期的な遺伝勉強会の開催		▶
			遺伝的検査機器の更新	臨床遺伝専門医の認定取得(1名) 遺伝診療部所属臨床遺伝専門医増員(計2名(兼任)) 遺伝診療部専属看護師の確保(1名)
		H33年度	H34年度	H35年度
a	各診療科の遺伝診療への協力及び指導		▶	
	コンパニオン診断薬導入に伴う遺伝カウンセリングの実施		▶	
	他院での分娩希望患者への出生前検査(NIPT)の開始	県内(特に県央・県北地区)施設で遺伝カウンセリング外来を希望する施設へ臨床遺伝専門医もしくは認定遺伝カウンセラーの派遣		
b	臨床遺伝専門医及び認定遺伝カウンセラー(学生含む)研修(各年度1名程度)		▶	
	定期的な遺伝勉強会の開催		▶	
	常勤認定遺伝カウンセラーの増員(計2名)		常勤認定遺伝カウンセラーの増員(計3名)	
	遺伝的検査機器の更新		臨床遺伝専門医の認定取得(1名) 所属臨床遺伝専門医増員(計3名(専任1名、兼任2名))	
計画期間前(平成29年度まで)の実績	a) NIPT検査及び遺伝性腫瘍に関する検査が実施できる体制構築 b) 常勤認定遺伝カウンセラーの確保、人類遺伝指導医の確保			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	呼吸器センター			
ミッション等	ミッション: 医師不足地域を含む茨城県の呼吸器診療の向上に寄与する ビジョン: 肺癌を対象に、限られた医療資源の中で高度に効率的な医療を実践する			
中期計画の項目	1.呼吸器センター外来開設 2.呼吸器病棟開設 3.社会、医療背景を理解し呼吸器診療に特化した、クリニカルリサーチコーディネーター、医療ソーシャルワーカーを育成する			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	1	セカンドオピニオンを対象に既存施設を使用した呼吸器センター外来開設	胸部異常陰影・肺癌患者対象に既存施設を使用した呼吸器センター外来開設	胸部異常陰影・肺癌患者対象に新規施設を使用した呼吸器センター外来開設
	2	呼吸器センター病棟、概要を検討	呼吸器センター病棟を既存施設利用し開設 不足施設を評価	呼吸器センター病棟を既存施設利用し開設 新規施設の評価
	3	現職CRCより呼吸器CRCを選定し臨床調査、臨床試験に関わって頂く	現職CRCより呼吸器CRCを選定し臨床調査、臨床試験に関わって頂く。呼吸器病棟に専任ソーシャルワーカーを配置する	呼吸器CRCを呼吸器病棟に配置し臨床調査、臨床試験に関わって頂く。呼吸器病棟に専任ソーシャルワーカーを配置する
		H33年度	H34年度	H35年度
	1	呼吸器一般患者を対象に呼吸器センター外来で診療	呼吸器一般患者を対象に呼吸器センター外来で診療	呼吸器一般患者を対象に呼吸器センター外来で診療
	2	呼吸管理可能なRCUブース、感染管理、週末の看取りが可能な個室を7室以上整備した呼吸器センター病棟を新規施設で開設	呼吸管理可能なRCUブース、感染管理、週末の看取りが可能な個室を7室以上整備した呼吸器センター病棟を新規施設で開設	呼吸管理可能なRCUブース、感染管理、週末の看取りが可能な個室を7室以上整備した呼吸器センター病棟を新規施設で開設
	3	呼吸器CRC呼吸器ソーシャルワーカーを外来病棟に配置する	呼吸器CRC呼吸器ソーシャルワーカーを外来病棟に配置する	呼吸器CRC呼吸器ソーシャルワーカーを外来病棟に配置する
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績			

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	栄養サポート室			
ミッション等	ミッション: 栄養サポートチーム(NST)による適切な栄養管理を通じて、患者様の病状回復・健康増進を支援し、当院及び地域の医療安全・医療コスト節減へ貢献する ビジョン: NSTの診療・教育・研究機能の充実・強化			
中期計画の項目	a) 栄養不良症例に対するNST介入率の増加 b) NST教育機能の充実・強化(研修会、NST専門療法士実地修練)、学術業績の蓄積 c) a)b)に必要なNSTスタッフ(管理栄養士)の人材確保・養成および体制確立(病棟配置促進等)			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	a)	NST介入率 (栄養不良入院者のうち NST介入症例の占める 割合)		→
	b)	研修会(目標:10回/年) NST専門療法士実地修練 (目標:10名/年) 学会・協議会関係	日本静脈経腸栄養学会 (JSPEN) NST稼働施設認定更新作業	→
	c)	管理栄養士 → 給食管理・栄養管理 1名増員 → に関する on-the-job training	→ 1病棟配置 training	管理栄養士 → training → 1名増員
		H33年度	H34年度	H35年度
	a)			目標:30%超
	b)	(研修会・ 実地修練)	日本栄養療法推進協議会 (JCNT) NST稼働施設認定更新作業	→
	c)	→ 1病棟配置  管理栄養士1名増員 → training → 1病棟配置	管理栄養士1名増員 → training → 1病棟配置	管理栄養士 → training → 1名増員
	計画期間前 (平成29年度まで) の実績	a) 新電子カルテ移行後に症例抽出・NST介入方法を確認し、現状・目標値を再検討 b) ①研修会は年度計画に従い実施中 ②NST実修8名受講予定 ③JCNT施設認定更新中 c) ①NST専門療法士2名 ②管理栄養士配置病棟数5(病棟配置率35%)		

茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	茨城県地域臨床教育センター			
ミッション等	ミッション(存在意義):茨城県立中央病院における卒前卒後の研修教育体制の強化 ビジョン(目指すゴール):医学生、初期研修医、専攻医の指導医の確保、教育環境の整備			
中期計画の項目	①教員増員、補充による指導医と指導体制の整備 ②医学生、研修医の教育のための教材・環境の整備 ③研究指導医の確保、拡大による若手医学研究者の指導、大学院生の確保			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募による寄付講座教員の獲得による各診療科指導教員の補充、指導体制の整備。</li> <li>・平均年1名の教員増員による欠員のある専門診療科の指導医確保。</li> <li>・指導医増員に伴う専門医研修の充実と専攻医の必然的獲得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募による寄付講座教員の獲得による各診療科指導教員の補充、指導体制の整備。</li> <li>・平均年1名の教員増員と退職等に対応した補充による専門診療科の指導医確保。</li> <li>・指導医増員に伴う専門医研修の充実と専攻医の必然的獲得。</li> </ul>	
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員増員による各診療科の卒前卒後教員体制の充実。同時に若手医師にとって魅力ある診療体制と教育体制の確保。スキルラボの継続的な整備(別途中期計画書参照)</li> </ul>		
	③		<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波大学大学院の研究指導教員の資格の取得による研究指導体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波大学大学院の研究指導教員の資格の取得による研究指導体制の整備</li> <li>・研究指導も可能な専門研修施設を提供することで、大学院生の研修を支援。</li> </ul>
		H33年度	H34年度	H35年度
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募による寄付講座教員の獲得による各診療科指導教員の補充、指導体制の整備。</li> <li>・平均年1名の教員増員と退職等に対応した補充による専門診療科の指導医確保。</li> <li>・指導医増員に伴う専門医研修の充実と専攻医の必然的獲得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募による寄付講座教員の獲得による各診療科指導教員の補充、指導体制の整備。</li> <li>・平均年1名の教員増員と退職等に対応した補充による専門診療科の指導医確保。</li> <li>・指導医増員に伴う専門医研修の充実と専攻医の必然的獲得。</li> </ul>	
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員増員による各診療科の卒前卒後教員体制の充実。同時に若手医師にとって魅力ある診療体制と教育体制の確保。スキルラボの継続的な整備(別途中期計画書参照)</li> </ul>			
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波大学大学院の研究指導教員の資格の取得による研究指導体制の継続的整備</li> <li>・研究指導も可能な専門研修施設を提供することで、大学院生の研修を支援。・学位取得を視野にいれた臨床研究の指導体制の整備</li> <li>・研究指向のある若手医療人の獲得と研究指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指導も可能な専門研修施設を提供することで、大学院生の研修を支援。・学位取得を視野にいれた臨床研究の指導体制の整備と研究指向のある若手医療人の獲得</li> <li>・学位取得可能な研究指導</li> </ul>		
計画期間前(平成29年度まで)の実績	寄付講座教員全員が筑波大学大学院の授業担当の資格を有するが、研究指導資格は限定的である。したがって研究指向のある若手の積極的獲得が困難である。大学院所属の研修医、専攻医が派遣された場合の研究継続が現状では困難である。			



茨城県病院事業中期計画 H30～H35:6年間（県立中央病院）

診療科(部署)名	医療スキルトレーニングWG			
ミッション等	ミッション(存在意義):若手医師獲得のための研修体制の整備 ビジョン(目指すゴール):スキルラボの整備と継続的運営			
中期計画の項目	①医療スキルトレーニング室の物品整備・更新（詳細別紙） ②医療スキルトレーニング室の機能的活用・継続的運営のための人員確保・管理システムの構築 ③医療スキルトレーニング室による茨城県内臨床手技研修への支援体制の確立、院内外講習会開催			
年度別計画		H30年度	H31年度	H32年度
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡手術ドライボックスの整備・更新</li> <li>・内視鏡手術トレーニングシミュレータ購入</li> <li>・ロボット支援手術トレーニングシミュレータ購入</li> <li>・内視鏡手術用鉗子類の更新</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータ模型の購入・整備</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータの整備・更新</li> <li>・消耗品の補充(約3,000万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボット支援手術トレーニングシミュレータの購入・整備</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータ模型の購入・整備</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータの整備・更新</li> <li>・消耗品の補充(約3,000万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡手術シミュレータの購入</li> <li>・内視鏡手術用鉗子類の更新</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータ模型の更新</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータの更新</li> <li>・消耗品の補充(約2,000万円)</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務スタッフの確保、機器管理整備スタッフの確保</li> <li>・監視カメラの設置と管理</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療スキルトレーニング室の管理スタッフの確保による継続的運営</li> <li>・シミュレータ、機器の管理・整備スタッフによる継続的運営</li> </ul>
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内研修医対象の講習会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内研修医対象の講習会開催</li> <li>・院外/県内研修医対象の講習会の開催</li> <li>・院外/県内後期研修医以上対象の鏡視下手術手技講習会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内研修医対象の講習会開催</li> <li>・院外/県内研修医対象の講習会の開催</li> <li>・院外/県内後期研修医以上対象の鏡視下/ロボット支援手術手技講習会の開催</li> </ul>
		H33年度	H34年度	H35年度
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡手術ドライボックスの整備・更新</li> <li>・内視鏡手術用鉗子類の整備・更新</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータの整備・更新</li> <li>・消耗品の補充(約1,500万円/年)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボット支援手術トレーニングシミュレータの更新</li> <li>・内視鏡手術用鉗子類の整備・更新</li> <li>・研修医・専攻医教育用シミュレータの整備・更新</li> <li>・消耗品の補充(約3,000万円)</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療スキルトレーニング室の管理スタッフの確保による継続的運営</li> <li>・シミュレータ、機器の管理・整備スタッフによる継続的運営</li> </ul>		
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内研修医対象の講習会開催</li> <li>・院外/県内研修医対象の講習会の開催</li> <li>・院外/県内後期研修医以上対象の鏡視下/ロボット支援手術手技講習会の開催</li> </ul>			
計画期間前(平成29年度まで)の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療スキルトレーニング室は1部屋が確保されていたものの、極度に狭くトレーニング器機は院内に散逸していた。</li> <li>・平成30年度に研修棟1階に医療スキルトレーニング室が設置され機器類が集約される予定であるが、部屋は十分とはいえず現状以上の物品の収納、利用は困難と予想される。</li> <li>・専従事務職員が不在であるために、物品管理がされておらず、有効利用されていない。</li> <li>・対外的に、院外からの機器類の貸し出し要望もあるが、管理体制が不十分なため対応できていない。</li> <li>・院外はもとより院内向け講習会の開催も困難な状況である。</li> </ul>			

年度	番号	名称	製品規格	製造/販売	単価(千円)	個数	価格(千円)
H30年度	1	ロボット支援手術トレーニングシミュレータ	FlexVR	ガデリウス・メディカル	8,000,000	1	8,000,000
		同ソフトウェアモジュール	Maestro AR		1,500,000	3	4,500,000
	2	内視鏡手術フィジカルトレーニングシミュレータ 1セット	i-Sim2	カデリウス・メディカル	1,500,000	3	4,500,000
		同消耗品			50,000	8	400,000
	3	Biotexture手術トレーニングシステム 胸腔シミュレータ	FasoLab THORA	ファソテック	627,000	1	627,000
	4	Biotexture手術トレーニングシステム 腹腔シミュレータ		ファソテック	1,410,000	1	1410000
		同 消耗品(膀胱・尿道・腎モデル)		ファソテック	57,000	10	570000
	5	内視鏡手術用鉗子類 ニードルドライバー	STORTZ	イノメディックス		6	
		同 メリーランド	STORTZ	イノメディックス		3	
		同 シザーズ	STORTZ	イノメディックス		3	
		同 ディスポンシザーズ		イノメディックス		10	
	6	胸腔・心嚢穿刺シミュレータフルセット		京都科学	495,000	1	495,000
	7	動脈採血シミュレータ		京都科学	298,000	1	298,000
	8	経管栄養シミュレータ(経鼻・経口・胃ろう)		京都科学	238,000	1	238,000
	9	末梢挿入中心静脈カテーテル		京都科学	162,000	1	162,000
	10	導尿・浣腸シミュレータ 男性		京都科学	120,000	1	120,000
	11	導尿・浣腸シミュレータ 女性		京都科学	120,000	1	120,000
	12	縫合手技トレーニング フルセット		京都科学	110,000	2	220,000
	13	DAMシミュレータトレーニングモデル		京都科学	265,000	1	265,000
	14	アルミ製ハイロー ストレッチャー		京都科学	450,000	1	450,000
	15	救急カート(ユニックミニ)		京都科学	198,000	1	198,000
	16	気道管理器具セットA		京都科学	184,000	4	736,000
	17	喉頭鏡セット		京都科学	179,400	2	358,800
	18	助産シミュレータフルセット		京都科学	672,000	1	672,000
	19	腕総合注射モデル 腕自慢		高研	230,000	2	460,000
	20	セーブマンアドバンス		高研	1,180,000	2	2,360,000
	21	心肺蘇生トレーニングツールあっぱくんライト		アレクソン	1,620	150	243,000
	22	救急トレーニングシステム『救トレ』		ペンギンシステム	39,800	2	79,600
H31年度	1	レサシアンシミュレータPLUS+SimPad PLUS		京都科学	3,867,900	1	3,867,900
	2	ロボット支援手術トレーニング用シミュレータシステム	RobotixMentor	Simbionix/トライメド	27,200,000	1	27,200,000